

# 営農だより 第4号



- 目標**
- ①食味値 80 点以上
  - ②『米ぬか』使用の土づくりによる食味向上、循環型農業の実践

## ～適正な水管理（深水・中干し）を行いましょ～

**理想の稲姿** 茎数を制限する  
**最終目標茎数 18 本/株**（親茎 1 本、子茎 4 本、孫茎 1 本程度 × 3 本植え = 18 本）  
 深水・中干しを徹底し、理想の稲姿に近づけましょ!!

5月後半は一時的な大雨があったものの全体的に気温は高く日照時間も長く推移しました。向こう一か月も気温は高いものの梅雨らしく降水量が多いことが予想されています。気象の急激な変化にご注意ください。天気予報を確認しながら水管理に注意ましょ。また今後は熱中症の危険性も高まります。こまめな休憩と水分補給を必ず行い、作業をする際はできるだけ複数人で行いましょ。一人で作業を行わなければならない場合は家族や知人にどこで何時間程度作業を行うのか報告するようにしてください。

6月2日に定点調査を実施した結果、現在の生育状況は平均茎数 16.3 本、平均葉齢 7.8 葉でした（昨年同時期は 13.2 本、7.5 葉）。今後は発生した茎の多くが穂になるよう、かつ一粒一粒が充実した粳になるよう管理していきましょ。そのためにも今後の水管理が重要となります。深水・中干しのタイミングは葉齢 7.5～9.5 葉です。必要茎数を確保し、茎数が多くなってしまった場合は無効分けつを増やさないようしっかりと中干しを行い、その後間断灌水を行いましょ。根を健全に保つことは食味に係る重要な管理となります。

### 【御殿場の気象】アメダスデータ御殿場

項目	平均気温 (°C)			日照時間 (hr)			降水量 (mm)		
	本年	平年	差	本年	平年	%	本年	平年	%
4月 計	13.7	11.5	2.2	161.8	161.3	100.3	328.5	252.6	130.0
5月前半 計	15.8	15.0	0.8	97.3	77.9	124.9	162.0	121.3	133.6
16～20日	18.9	16.1	2.8	59.6	25.3	235.6	0	41.4	—
21～25日	16.1	16.8	▲0.7	11.5	25.8	44.6	96.5	39.0	247.4
26～31日	20.3	17.4	2.9	32.6	29.6	110.1	5.5	42.0	13.1
5月後半 計	18.4	16.8	1.6	103.7	80.7	128.5	102.0	122.4	83.3
5月 計	17.1	15.9	1.2	201.0	158.6	126.7	264.0	243.7	108.3

おいしいをつくりましょ。

富士伊豆農業協同組合

発行 2026(令和8)年6月5日  
 北駿産米改良推進協議会  
 JAふじ伊豆御殿場営農経済センター  
 TEL: 0550-84-4820

### 定点調査・生育状況

株間平均 21.6cm (目標茎数 324 本)

6月2日(火) 現在

場所	標高 (m)	播種日	田植え日	植付本数	茎数 (本)	茎数/m <sup>2</sup>	※目標茎 (%)	草丈 (cm)	葉齢	葉色
神山	280	4/13	5/6	3.4	20.1	355	109.6	31.7	7.7	5.3
吉久保	370	4/5	4/30	3.3	21.1	330	101.9	33.1	9.1	5.5
大堰	400	4/4	5/4	3.1	14.2	218	67.3	30.5	7.6	5.1
用沢	480	4/14	5/9	3.9	11.6	177	54.6	31.1	7.3	5.0
中畑	550	4/5	5/5	3.6	16.5	256	79.0	30.6	8.0	4.7
上柴怒田	610	4/11	5/10	3.2	14.3	197	60.8	29.4	7.1	5.0
平均				3.4	16.3	255.5	78.9	31.1	7.8	5.1

※茎数と株間から算出したm<sup>2</sup>当たりの目標茎数に対する進捗状況

**m<sup>2</sup>当たりの茎数を計算しましょ!!** ~ 茎数(本)/m<sup>2</sup>が分かると今後の管理に役立ちます!

[例] 株間平均 18 cm 畝間平均 30 cm 茎数平均 14 本 (すべて 10 株の平均です)

$$\rightarrow 1(\text{固定}) \div 0.18 \div 0.3 \times 14 = 259.3 \text{ 本/m}^2$$

**刈取り時目標有効茎数(穂になる茎数) 324 本/m<sup>2</sup>** を目標にすると

	株間 18 cm	株間 20 cm
中干し	20~22 本/株 (370~407 本/m <sup>2</sup> )	23~25 本/株 (383~416 本/m <sup>2</sup> )
最高分けつ期 (6月末, 11 葉期頃)	25 本/株 (463 本/m <sup>2</sup> )	28 本/株 (467 本/m <sup>2</sup> )

上記の表を目安にしましょ。



9 葉目がまだ半分くらいしか出ていないため、8.5 葉期

### ◎中干しの効果◎

- ・無効分けつを抑える。
- ・収穫時の作業効率を上げる。
- ・ガスを抜き、土中に酸素を送ることで有害物質の発生を防いで根を健全にする。

強く干しすぎると根の切断の恐れもあるので、田面に 1 cm 程度のヒビが入るくらい（足跡に水がたまるくらい）。本年は、気温が高く日照時間は長く推移しています。このような環境下では分けつが過剰に発生することが予想されます。無効分けつの発生を抑え、地中の水分を吸収するために根がしっかり張るよう、中干しを行いましょ。

## 【水管理】

深水または中干しによる水管理は出来ていますか？

中干しが完了したら間断灌水や飽水管理を行い、根に酸素と水を供給します。

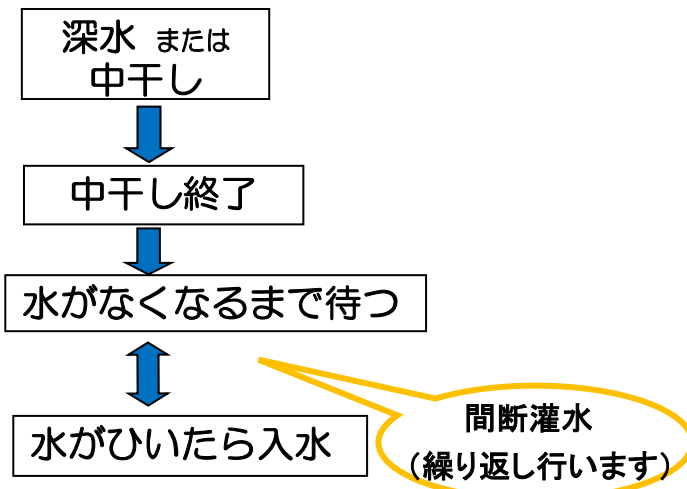
### 実施時期

#### 深水管理

葉齢 7.5～9.5 葉、莖数 20 本程度 (株間 18 cm) で深水を実施し、その後 1 週間程の軽い中干し。

#### 中干し管理

葉齢 7.5 葉、莖数 20 本程度 (株間 18 cm) に開始し、田面に 1 cm 程度にヒビが入るくらいまで。



## ◆中干し後の水管理◆

### 【方法1】間断灌水

- ① さっと流し、水をためない
- ② ヒビにならない程度 (3～5 日に 1 回入水)

### 【方法2】溝切り機により飽水管理

- ① 中干し後小ヒビが入る頃から溝切りを行う
- ② 溝を切ったところのみに水を入れる

### 溝切り機による溝作成方法

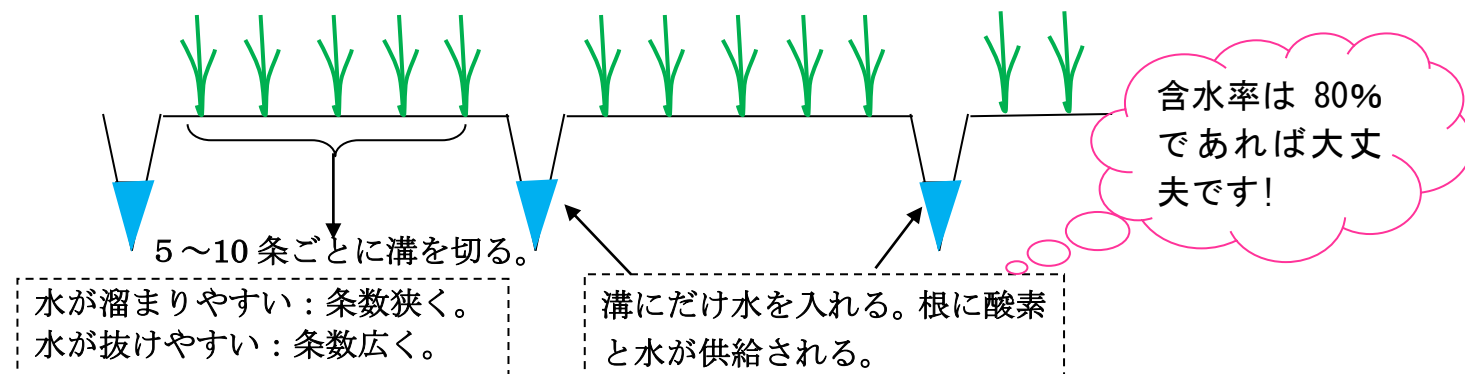
溝切り機で外周と 5～10 条ごとに溝を切る。

中干し後小ヒビが入る頃から水を入れながら溝を切ると、溝が崩れにくく作業しやすい。

(雨が降り多き日や水はけが悪い場合はおおむね 5 日程度おいてから)

入水口は溝とつなげるが、出口はつなげない。(水をためるため)

ただし田面と同じ高さに堰板を合わせる。

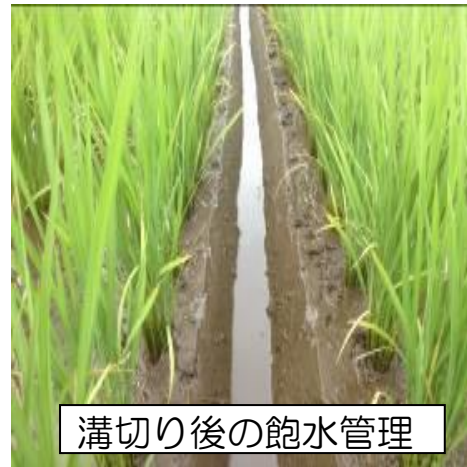


### 【間断灌水の効果】

- ① 草丈伸長抑制による倒伏軽減。
- ② 出穂後遅くまで根に水・酸素を常時供給できるので、登熟が良くなる。(下葉が枯れにくい)
- ③ 溝以外は乾き、コンバイン作業も容易になる。



乗用式水田溝切り機



溝切り後の飽水管理

## 【雑草・病害対策】

ヒエやクログワイ等多年性雑草が残ってしまったら  
⇒ クリンチャーバス ME 液剤

薬剤 1,000ml を 70～100ℓ に希釈し、落水状態にして、晴天が続く日を選んで散布しましょう。(ただし、高温時は避ける。)ノビエ 5 葉期まで。

白葉枯病が発生する場合は  
⇒ オリブライト 1<sup>キロ</sup>粒剤  
オリゼメート 1<sup>キロ</sup>粒剤

※昨年発生した場合は 6 月中旬～下旬に必ず散布しましょう。治療薬はありません。

薬剤	使用適期	使用量(10a 当り)	対象病害
オリブライト 豆つぶ	出穂 10 日前まで (収穫 45 日前まで)	250g	いもち病・白葉枯病・紋枯れ病
オリゼメート 1 キロ粒剤	出穂 28 日～21 日前 (収穫 14 日前まで)	1kg	いもち病・白葉枯病・穂枯れ(ごま葉枯病)

※湛水状態 (水深 3～5 cm) で均一に散布してください。

## 【峰の雪もち穂肥施用】 【マップ 456】

### 穂肥適期

穂肥え回数	出穂前日数	幼穂長
1 回目	28 日前	1 mm
2 回目	18 日前	10 mm

幼穂を確認してください

※標高によって施肥日が異なります。

### 標準的な穂肥施用時期及び施用量 (参考)

肥料名	1 回目	2 回目	平均出穂期
マップ 456	6/20 20kg/10a	6/30 15kg/10a	7/18

※今年も 7 月 3 日から生育巡回を実施します。ぜひご参加ください。

### ☆農薬使用の際の注意☆

農薬を使用する際はラベルをよく確認し、使用時期、散布量、希釈量等を厳守してください。適用外使用の場合は JA への出荷ができません。

### ～ドリフト注意～

毎年、畦畔や耕作放棄地等への農薬散布によるドリフト被害が発生しています。「いつも行っていること」であっても、風のない日を選ぶ、ドリフト低減ノズルを使用する、使用前に散布機等の点検を行うなど、細心の注意を払いましょう。また、草刈りを行った後は河川へ草が流れないように除去しましょう。

### ～言葉の解説～

間断灌水：1～2 日湛水、2～3 日落水。水が無い状態を作ることで酸素を供給し、根を伸ばす。  
飽水管理：2～3 cm 入水し、水尻を止めて自然落水。足跡に水が残る程度になったら再び入水。